

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所番号	4694500010
法人名	特定医療法人 大進会
事業所名	グループホーム 重富の里
所在地	鹿児島県始良市平松5320番地 (電話) 0995-66-5477
自己評価作成日	平成25年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年6月27日

重富の里は武家屋敷跡の風情が残る閑静な住宅街の中にあり、事業所の周りは四季折々の草花が咲き、のんびりと暮らすにはぴったりの環境となっています。

グループホームと小規模多機能ホームが併設しており、ご利用者・職員は自由に行き来ができており、もし小規模を利用されている方が、自宅での生活が困難となってきた場合、環境の変化が苦手な認知症の方でもスムーズにグループホームへ入所する事ができます。

反対にグループホームから自宅への暮らしに戻る場合も小規模を利用しながら自宅での暮らしを支えることができます。

法人グループには病院や老健施設があり、その方の状態によって医療、福祉と連携を図っていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、医療法人が運営しているグループホームである。武家屋敷跡と伝えられている住宅地に位置し、小規模多機能ホームも併設されている。周囲には、消防分遣隊や公民館・小学校・民族資料館・コンビニエンスストアなどがあり、散歩や買い物の際には、地域住民と挨拶や会話を交わすなど、地域との交流が自然になされている。
- ・ホームは町内会に加入し、地域との交流を積極的に進めており、認知症対策や介護支援の情報の発信の場となっている。バーベキューパーティーには近隣の馴染みの知人や家族の参加があり、豊かなふれあいが継続するように支援している。
- ・協力医療機関の看護師による定期的健康管理や、緊急時の対応などの医療連携によるバックアップ態勢が確立しており、利用者や家族にとって、安心できる暮らしの提供ができています。
- ・災害対策においては、定期的に避難訓練を実施し、安全対策の整備もされている。また、地域住民との協力体制もさらに充実させる方向で検討している。
- ・管理者は、職員を育てることに力を入れ、各種研修会等への出席を奨励及び援助している。職員は、ケア対応等のさらなる向上を目指して研鑽している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念「愛・夢・学」を事務所内に掲示し、理念を基に実践につなげている。	事業所独自の理念を作成し、事務所内等に掲示して、朝礼やミーティングなど機会あるごとに話し合い、具体的なケアに繋がるように、理念の共有と実践を図っている。	理念は抽象的であるが、行動指針として「私たちは、これまで住み慣れ親しんだ地域での「関係性」や「継続性」を大切にその人らしい暮らしのお手伝いに努めてまいります。」を掲げて取り組みが進められている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては自治会などの活動に積極的に参加し交流しているが、利用者と地域の方々との交流は少ない。	ホームは、自治会に加入して地域のサロン等に参加したり、事業所の焼き肉パーティーに地域住民を招待したり、徘徊模擬訓練を地域住民と共に実施している。高校生の福祉実習や小学生との交流、ボランティアの受け入れなども行い、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	毎月、地域の方へも発行している通信誌の中で、認知症についての情報を発信したり、地域のサロンにて認知症ケアの勉強会を実施して認知症の理解を深めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回、地域の民生委員や自治会長、市の職員を招いて運営推進会議を開催し、利用状況や取り組み等についての報告や意見交換、アドバイスを頂いたりしている。</p>	<p>会議は家族代表や担当行政職員・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加で、定期的に開催している。事業所の状況報告や現在取り組んでいる運営について、意見や要望を聞き、出会者からの意見等が積極的に出され、サービス向上につなげている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議にて市の職員も参加され意見交換や活動報告をして、協力関係を築き、継続している。</p>	<p>市の担当者とは、担当窓口に出かけ相談したり、運営推進会議時に実情や情報を報告し、アドバイスを受けている。また、市主催の研修会などに、ホームから積極的に参加し、日頃から連携を密に取り合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内で身体拘束についての勉強会を行い、職員皆で身体拘束をしないケアに努めている。</p>	<p>身体拘束廃止の勉強会が法人で行われ、マニュアルを基本に、身体拘束についての具体的な行為や態度について職員の共有認識を図っている。昼間の玄関は施錠せずに、職員間の連携と見守りで安全な暮らしを支援し、身体拘束をしない支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では職員間でお互いに注意を払っている。自宅においてはご家族の介護疲れなどから虐待に発展しないように家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人で開催する権利擁護に関する勉強会への参加しているが、職員への周知はまだ徹底できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書に沿って説明し、ご家族へも同意を頂いて契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時のご家族とのコミュニケーションなどでご家族の声、意見等をミーティングや職員会議で検討し業務改善に活かしている。	契約時に利用者や家族が意見を表出できる方法を説明している。利用者からは日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意し、思いを聞いている。家族からは面会や行事参加等の機会に意見や要望を聴取している。意見箱も設置している。出された意見等は、職員で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々のミーティングや月1回の職員会議、また個別的な面談などで意見を聞き、検討している。</p>	<p>管理者は、朝礼や職員会議・ミーティング等を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。年3回の個別面談や相談事は個別に聞き、コミュニケーションを図り、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課を実施しており、面談にて個別の目標や取組計画を決め、職員の質の向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1に事業所内や法人内で勉強会や質の向上委員会また人事考課にて研修や職員面談を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市内のグループホームや小規模多機能事業所と一緒に勉強会や実践報告会を行いながら交流会、研修などを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は利用者の方との信頼関係を築く為に、安心してもらえる声かけや、訴えに対して傾聴・受容することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前に、不安や要望などを聞き、自宅での暮らしが続けていけるように支援していく事を話し合いを持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活は可能なのか？グループホーム入所が必要なのかという事を基準に考え、現時点で何が問題となっているかを考えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ、それぞれの役割りや出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がストレスを感じていないかコミュニケーションの中から汲み取りながらも、一緒に支えていくよう励ましやアドバイスを送りながら、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はよく来てくれるが、これまで関わりのあった人が来られたり、地域に出かけたりする事が少ない。	家族の面会が多く、一緒に馴染みの店へ買い物に出かけたり、行きつけの理美容院などへ行ったり、家族の協力を得て、自宅訪問や外出の支援を行っている。	今後、ライフプランとして馴染みの人や場との継続的關係が途切れないよう働きかけていく計画があり、期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でリビングでの団欒や職員が楽しい環境作りに関わり、利用者同士が関わり合いが出来るように配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても、また必要となった時には、また相談に応じたり、利用を始める事ができる事を伝えている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知の状態や身体的な状態、また家族からの情報をもらい、日々のケアに努めている。	入所時に利用者や家族から思いや意向を聞き、心身の状況に合わせて日々のケアに活かしている。視覚障害の利用者には混乱や不安に対し、スキンシップをしたり寄り添い、精神科医の指導を受けたりしながら家族と連携し支援している。意思疎通の困難な場合は、言葉や表情などから、職員間の情報交換を密に行い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしを聞き、その人らしい暮らしが継続できるように情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や職員間での情報交換にて利用者の過ごし方や心身状態の把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>チームでの介護計画を作成することが出来ていないのが現状であるが、ライフサポートプランを取り入れており、チームでの計画作りを行っていく事している。</p>	<p>本人や家族の意向を汲み取った上で、ケア会議で協議し介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスを3ヶ月毎に実施し、変化があればそのつど見直している。今後、ライフサポートプランを取り入れて、よりよく暮らすための課題や目標・ケアの在り方についても検討中である。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者一人ひとりの日々記録を記入し、職員間での情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>グループホームの中の生活が主となっており、柔軟な支援、サービスはまだ出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会等との関わりはあるが、地域資源の協働についてはまだまだ不十分な点が多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や協力医療機関との連携を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医療機関から看護師による健康管理が行われている。主治医や協力医療機関と、適切な医療を受けられるように連携を密に取っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が1名がおり、また同法人グループの病院より、週2回看護師が訪問し状態の変化などの報告、相談を行ない、異常時の早期発見や病院受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や入院中はソーシャルワーカーと連携を取りながら、今後の方向性など情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在の所、方針は決まっていなが、本人、ご家族と終末期のあり方について話し合いを行い体制作りをしていく。</p>	<p>入所時に利用者や家族に、重度化や終末期に伴う対応の方針を説明し、同意書をもっている。また、状況変化に従って繰り返し話し合い、意思を確認している。職員全員が、その方針を共通認識しており、既に看取りの経験がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを備えているが、定期的な訓練は行っていないので、今後実施していきたい。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防職員に協力をもらい、消防避難訓練を行っている。また、その時に地域の民生委員や自治会長にも訓練様子を見て頂き、地域への協力も依頼している。</p>	<p>消防署の指導のもと、年2回、昼夜間想定避難訓練を実施している。民生委員や自治会長の参加があり、今後の地域住民との協力体制について、運営推進会議で検討中である。地震や水害等の避難訓練も実施予定である。スプリンクラーが設置され、災害時の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のあるケアを大切に、利用者の対応に十分配慮を行っている。言葉かけなども職員間でお互いを注意し合っている。	日々の関わりの中で、利用者の尊厳とプライバシーを保持する言葉かけや対応に留意し、排泄時や入浴・更衣時にさりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の為、自分の思いをなかなか表わす事が困難な方もおられるが、行動や表情などから汲み取るようにしながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を大切にしながら、利用者、一人ひとりに応じたケアに努めているが、日々の業務に追われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	TP0に合わせた洋服選びのお手伝いや声掛け、頭髪のお手入れなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする際に、野菜を切ったり、下ごしらえなど職員と一緒にを行うようにしているが、それを嫌うご利用者もいる。	食事提供では、利用者の嗜好を聞き、希望に添った献立を工夫している。利用者も、可能な範囲で準備や後片づけを職員と一緒にしている。食べやすいように食事形態も配慮している。誕生会や行事食など、ちまき等の郷土料理づくりも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量の確認を行い、また、状態に合わせ、食事をきざんだり、トロミをつけた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけ、必要な方へは口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを記録し管理を行っている。声かけや誘導にてトイレで排泄が出来るように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、排泄チェック表で、声かけやトイレ誘導を行い、自尊心に配慮しながら、トイレでの排泄を大切にしている。夜間はポータブルトイレを使うなど、排泄の自立に向けて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給や、必要な方へは下剤を使用して排便のコントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間や曜日が決まっており、業務の都合となっている。	入浴は週3回の計画となっているが、利用者個々の希望に添った支援をしている。機械浴での入浴支援も行っている。入浴をいやがる利用者には、職員間で連携し、時間を置いて声かけしたりして、入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムやその日の状況を確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬整理ケースを活用して職員が用法や用量、また誤薬、飲み忘れがないように確認しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や嗜好を把握し、本人の得意な分野での役割（裁縫や料理など）を持たせ気分転換に繋がるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節に合わせ花見やドライブ、また自宅への外出の機会を計画し実行している。	日常的には、近隣の散歩や小規模多機能ホームへの訪問・買い物など、ひとり一人の楽しみごとに合わせて出かけている。また、ドライブをかねて自宅訪問など、外出の機会を工夫している。年間計画を立てて、ホームの行事の花見など、家族も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方については、買い物などの支援をおこなっているが、ご家族と話をし確認を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の状態に合わせて、職員が電話をかけて、本人に電話を替わるようにしている。手紙については、ご家族から手紙は届くが、利用者が手紙を書くという事は今の所ない。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングにはテーブル、椅子の他、ソファを置き、またその隣には座敷があり、それぞれの状態に合わせて利用してもらっている。また絵画や花を飾っている。	共用の空間は、広々としており、廊下の照明は昔風の傘の電気照明や障子などで心が和む。換気や採光に配慮され、壁には絵画が飾ってある。また、ソファが置かれ、畳の部屋もあり、好みの場所でくつろげるなど、心地よく過ごせるよう配慮してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係を考慮してテーブルの座席を配慮したり環境作りを大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の希望を考慮し、自分の使い慣れた物や馴染みの物を持って頂けるよう本人やご家族に説明を行っている。	居室には、本人や家族の思いのこもった品物やそれぞれの使い慣れた家具などが持ち込まれて個性的である。視覚障害の利用者には、背の高い家具は避け、安全性に重点が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は段差があまり無くバリアフリーとなっており、廊下やトイレには手すりが設置しており利用者が安全に生活が送れるようにしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない